

性を認識し、大学や大学院における移植コーディネーター養成の正式プログラムが不在である現状において、質を維持し、専門職として周囲の信頼を得るために認定試験が必要であると考えていた。

(1) 身体的に重症な患者への安全な治療・医療の提供

「患者の安全がかかっていますから、アメリカではこの移植に携わっている人々の認定が重要だと思われています。その人の決定により、人々が長生きできるか死亡するか、に結びつきますから。それは医療・保健関係の仕事について一般的な原則ですが、移植となると重症の患者ですから、それはいっそう重くなります。それにもうひとつの理由として、正式な教育プログラムの中で認定が行われていないことです。そこで認定があることにより、これが世の中に認められている専門性だと示すことができます。ABTCという組織ができたのは、そういう必要に応えることが理由のひとつでした。以前の医師たちは、この役割の必要性を認めていませんでした。しかし、(認定)試験ができてからのコーディネーターは、医療・保健チームの中の重要な一員になってきました。」

(2) 大学・大学院での正式な教育プログラムの不在の補填

「教育制度がまだないところで認定プログラムを設けることがよくあります。教育制度を先に作ったほうがいいのか、認定制度が先でいいかを考えたときに、その選択があることを考えるといいです。アメリカでは認定制度がまずできて、そこから正式な教育制度が発展していくことがしばしばあります。順序が逆に起こることもあります。この問題にひとつだけの正解はないでしょう。しかし、正式な教育プログラムがないのなら、そのギャップを埋めるために、患者がなるべくいいケアを確実に受けられるよう

にするために、認定制度が役に立ちます。」

3. 米国移植コーディネーター委員会 (仮訳) (American Board of Transplant Coordinators, ABTC)

1) ABTC 及び AMP について

ABTC は、1988 年に発足した独立非営利組織であり、任意の非国家認定を授与することを目的とする。この組織は、臨床移植コーディネーター (CCTC; Certified Clinical Transplant Coordinator)、及び臓器調達移植コーディネーター (CPTC; Certified Procurement Transplant Coordinator)、臨床移植看護師 (CCTN; Certified Clinical Transplant Nurse) の 3 つの資格を授与するものであり、NATCO とは別の団体である⁷⁾。

ABTC が認定試験を実施するにあたっては、AMP (Applied Measurement Professionals, Inc) に試験の実施を委託している。AMP は、全米の 100 以上の資格授与機構に対して、査定サービスを提供しており、主要な業務として、職務分析、及び試験開発、試験の管理運営、得点計算及び通知の 4 つを行っている。試験問題の開発にあたっては、その信頼性と妥当性を確立しているため、その専門分野における雇用の際には、試験結果を法的に問題なく活用することができる⁸⁾。認定試験は全国約 170 か所の試験センターで行われており、コンピューターによる試験 (CBT) である。

2) 認定試験の開発プロセス

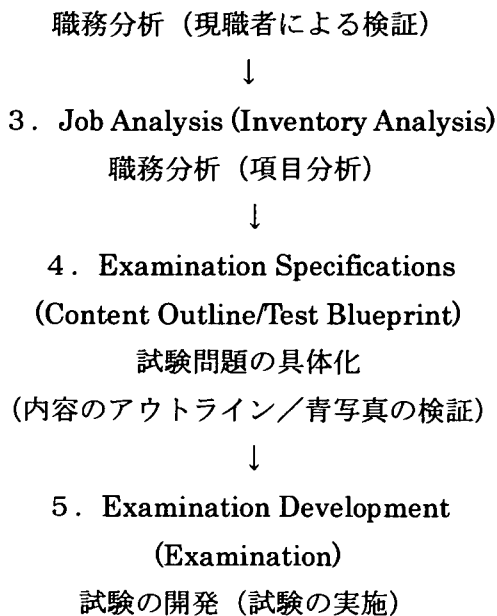
移植コーディネーターの認定試験は、AMP 社によって次のような手順で作成される。

1. Job Analysis (Dimensions of Job)

職務分析 (業務の範囲)

↓

2. Job Analysis (Verification by Incumbents)



注）フローチャート（Establishing Validity Evidence of Test Content⁹⁾）をもとに作成

（1）職務分析（業務の範囲）

まず、AMPの専門家と移植コーディネーターのグループで、職務記述や勤務評定、研修資料、学術誌や参考書などを基に、課業の明細表を作成する。それに基づいて、タスク（課業）とコンピテンシー（実践能力）を調べる正式な調査票を作成する。

（2）職務分析（現職者による検証）

(1)の調査票を郵送し、数百名のコーディネーターに回答を求める。ここから、調査票上のタスクが重要か、現に実施されているか等について明らかにしたうえで、重要なものだけを試験に反映させ、同時に核心から遠いタスクを試験から除外する。

（3）職務分析（項目分析）

1名の試験問題作成者にはタスクを一つだけ割り当てた上で、3段階の認知レベル（想起、適用、分析）のうち一つのレベルについてだけ問題を作成するようにする。ここでいう3段階のレベルとは、たとえば、想起レベルではやり

方を思い出せばよい、適用レベルでは論理に基づいて実行しなければならない、分析レベルでは分析、批判的思考、問題解決をしなければならないといった複雑度を表している。分析レベルの問題の場合は、患者の事例などが提示される場合もある。試験は多肢選択式テストで、150項目中75項目は特定の臓器について、残りの75項目は一般項目となっている。

（4）試験問題の具体化（内容のアウトライン）

心臓・肝臓・腎臓等、すべての臓器が代表されるように8～10名のコーディネーターからなる委員会をつくり、試験問題の項目について一つずつ検討する。試験項目の採用について1名でも反対すれば、その項目は試験には不採用とし、全会一致で承認した項目だけを試験問題とする。

（5）試験の開発（試験の実施）

(4)で承認された試験項目がデータベースに入力された後、AMPの担当者が決められた手順で試験項目を取り出し、試験問題用紙の草稿を作成する。委員会が改めてこれを吟味し、項目同士の矛盾がないか、ある問題の中に別の問題の回答がないか等のチェックを行う。次に実際に試験が行われた後、試験結果のデータを吟味し、不適切な問題がなかったか確認する。試験内容に問題が発見されれば、複数回答を認める、あるいはすべての回答を正解にするなどの措置をとる。最後に、個々の試験問題の難易度を点数評価し、委員会が中心となって合格ラインを検討する。

3) 受験用ハンドブックの発行

（1）ハンドブックの構成

ABTCでは、“Candidate Handbook”というタイトルでCCTC及びCPTC、CCTN(Clinical Transplant Nurse)の受験に必要な情報を網

羅したハンドブックを発行している¹⁰⁾。本冊子は、以下のような構成である。①試験の施行方針及び規則(資格の有益性、試験実施の原則、受験資格、受験の手続きと試験当日の注意事項、コンピュータシステム(CBT)による模擬試験、成績証明書の発行、資格証明書の更新)、②試験の準備(試験の概要・出題項目、回答と採点方法、例題、試験対策)、③受験申込書

このハンドブックの内容は、職務分析の研究に基づいて改訂される。前回の研究は1997年に行われており、10年を経過し業務内容が変化しているため、2008年に改訂予定である。現行の移植コーディネーター概要についても、ABTCが2006年に行った研究が反映されていないため、2008年頃にはこれを廃止し、現在準備中の新しい概要を採用する予定である。

(2) 受験資格

このハンドブック中で、CCTC及びCPTCの受験資格については、次のように述べられている。

「CCTC及びCPTCを受験する者は、移植コーディネーターとして少なくとも12か月の臨床経験を有している必要があり、受験申込日においてそれが完了していなければならない。さらに、自己学習と正式なトレーニングプログラムの両者をとおして、自分の専門分野の基本事項について学習できている必要がある(研究者による抄訳)。」

4) 受験者の背景及び合格率

ABTCにおけるインタビューからは、CCTCについて、2006年の1年間の受験申し込み者の54%が「学士号」、15%が「修士号」、13%が「準学士号」、7%が「看護学の終了証明書(学士号以下の看護課程)」であることがわかった。「その他」が1%以下おり、これはおそらく博士レベルであると推測された。免許、登録につ

いての割合は計算されていないが、約95～98%がRN(登録看護師)であると考えられた。

CPTCについては、「学士号」が50%、「準学士号」が33%、「修士号」が8%、「看護学の終了証明書」が5%であった。CPTCについては「その他」が8%いたが、これは生命科学系の学位取得者と推測され、博士レベルは1%以下、具体的にはひとりのMDが調達の試験を受けていた。

合格率は、CCTCにおいては学歴によって結果が異なっており、「学士号」取得者83%、「準学士号」は79%、「修士号」は100%であった。一方、CPTCでは著名な差はなかった。

5) 移植コーディネーターの現状

現在、アメリカには、約2800名のCCTC及びCPTCがいると推測され、その内訳は約半数ずつである。そのうちの325人のみしか認定されていない。合格者のうち、25～30%が修士レベルで、残りがRN(学士レベルか上級実践レベル)であり、博士レベルは1%であった。修士と上級実践のレベルは非常に似ているが、上級課程の中には博士号に進めるものもある。ここでは、上級実践は修士と同等とみなされている。

【引用・参考文献】

- 1) 志自岐康子 他: 臓器移植医療における看護職移植コーディネーターの役割・機能に関する研究—生体部分肝移植に焦点をあてて—, 平成16～18年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書(課題番号16390627), 103-113, 2007
- 2) New York Presbyterian Hospital Columbia University Medical Center The Center for Liver Disease and Transplantation: Job Description for Liver Program Waitlist Coordinator and

Liver Program Transplant Coordinator
and Nurse Practitioner, 入手資料
(2007/08/21)

- 3) NATCO : Position Statements & Policy
Priorities, 入手資料 (2007/08/23)
- 4) NATCO : Educational Programs
Scheduled for 2007, 入手資料
(2007/08/23)
- 5) DL Rudow, L Ohler & T Shafer : A
Clinician's Guide to Donation and
Transplantation, Applied Measurement
Professionals, Inc., 2006
- 6) NATCO : Core Competencies for the
Clinical Transplant Coordinator and the
Procurement Transplant Coordinator,
2004, 入手資料 (2007/08/23)
- 7) ABTC : ホームページ About ABTC
(<http://abtc.net/aboutabtc.html>)
(2007/08/16)
- 8) AMP : Measurement Services Overview,
入手資料 (2007/08/23)
- 9) AMP : Establishing Validity Evidence of
Test Content, 入手資料 (2007/08/23)
- 10) American Board for Transplant
Certification : Candidate Handbook,
2007, 入手資料 (2007/08/23)

G. 研究発表

特になし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

予定を含め特になし。

厚生労働科学研究費補助金（再生医療等研究事業）
分担研究報告書

日本における臓器移植コーディネーター養成研修に関する面接調査

| | | | |
|-------|--------|------------------|-----|
| 分担研究者 | 習田 明裕 | 首都大学東京健康福祉学部看護学科 | 准教授 |
| 分担研究者 | 志自岐 康子 | 首都大学東京健康福祉学部看護学科 | 教授 |
| 分担研究者 | 高田 早苗 | 神戸市看護大学 看護学部看護学科 | 教授 |
| 研究協力者 | 三輪 聖恵 | 首都大学東京健康福祉学部看護学科 | 助教 |

研究要旨：臨床移植コーディネーター看護師教育プログラムの検討を行うことを目的として、臓器移植コーディネーター養成研修を行なっている日本看護協会看護研究・研修センターの担当者及び担当部門の管理者に対する半構成的面接調査を行い、養成研修の実態（研修内容、現状での課題等）を調査した。その結果、当初は移植医療看護に求められる機能と役割を学ぶレベルからスタートしたが、生体移植の件数が増加する中で、移植コーディネーターが増えていない状況から、現在では臓器移植コーディネーターの役割と活動を理解する目的に研修のレベルがシフトしていた。またレシピエントやドナーの意思決定をサポートする看護職の役割は大きいと考えており、さらに受講者のバックグラウンドが幅広いため、研修プログラムを検討していく必要があることも示された。

A. 研究目的

日本における臨床移植コーディネーター看護師教育プログラムの検討にあたって、現在、国内で行われている研修の内容の動向や研修の主催者が抱えている課題等を把握することを通じて、より実践的で臨床的に有意義な教育プログラムの作成に資することを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査期間

平成 20 年 1 月

2. 調査対象

臓器移植コーディネーター養成研修を行なっている日本看護協会看護研究・研修センターの担当者及び担当部門の管理者、計 2 名。

3. 調査方法

臓器移植コーディネーター養成研修を行な

っている日本看護協会看護研究・研修センターの担当者及び担当部門の管理者に対する半構成的面接調査を 60 分行った。養成研修の実態（研修内容、現状での課題等）を調査した。

4. 倫理的配慮

本調査の実施にあたっては、研修を行っている特定の団体を対象とすることにより、匿名性が得られないことから、事前に調査目的と方法の詳細について研修センター長ならび担当者・部門管理者に説明した上で、同意を得て行った。

研究者の一部は、当該研修の一部の科目の講師を担当しているが、調査の受け入れの可否に影響を及ぼすことのないよう十分に配慮して行った。

調査結果の公表する前に報告書原稿を対象者に送付し確認を得ることで対象者が不利益を被らないよう配慮を行った。なお首都大学東京荒川キャンパス研究倫理安全審査委員会の審

査と承認を経て実施した。

C. 研究結果

1. 臓器移植コーディネーター養成研修プログラムの概要（資料1～12参照）

1) 養成研修の立ち上げから現在に至るまでの経緯

日本看護協会の臓器移植に関する研修会の立ち上げは、平成9年度に日本看護協会内に設置されている看護倫理検討委員会において、臓器移植法施行にさきがけ「臓器移植コーディネーターに関する検討プロジェクト」（平成10年度よりワーキンググループに名称変更）が設置されたことがきっかけとなった。

平成10年度は、「臓器移植法と看護」という研修名（研修カテゴリー【看護トピックス】に位置づけられる）で、法律施行後の看護に求められる機能と果たす役割について学ぶ内容が主であった。その後、平成11年3月の臓器移植コーディネーターの育成に関する課題と教育プログラムについての提言を受け、平成11年度から「臓器移植コーディネーターの役割」という研修名（研修カテゴリー【看護実践に関する教育】という位置づけ）が掲げられ、5日間の研修が開始された。

「臓器移植コーディネーターの役割」という研修名は、平成13年度までの3年間継続し、平成15年度には「臓器移植コーディネーターと看護の役割」と名称が変更された。さらに平成16年度からは「臓器移植コーディネーター養成研修」と、コーディネーター養成研修の色合いを強くし、現在とほぼ同様な研修プログラムが生まれ、現在に至っている。研修カテゴリーは、平成13年から平成16年は【特定領域の役割を担い能力拡大を目指す教育】、平成17年度からは「養成研修」となっている。なお、平成11年度～19年度の臓器移植コーディネーターに係わる研修修了者数は448名である。

受講者の特徴としては、臓器移植コーディネー

ターの養成研修が、わが国においてはごく少数しか行われていないことによるためか、これからコーディネーターの任を担うという初級者から、移植コーディネーターとして既に活動をしている中級以上のレベルの人まで幅広くなっているのが現状である。

2) 研修目的

研修の目的は、今後の移植医療における看護に求められる機能と役割を学ぶというレベルからスタートした。その後、徐々に内容を洗練・専門化し、現在では臓器移植コーディネーターの役割と活動を理解することをその目的としている。

受講者の参加条件としては、当初は資料1～12に提示されるように、会員で臨床経験の要件をある程度満たせば原則参加できる窓口が広い研修となっている。そのため、例えば「移植を受ける患者のいる病棟に移動になったため、移植看護について初歩的なことを学びたいという受講者」から、「施設において移植コーディネーターの役割を期待されている受講者」、「現在実際に移植コーディネーター的役割を担っている受講者」など、受講者のレディネスやモチベーションは非常に幅が広い状況となっていた。そこで、受講者背景、また看護基礎教育のなかで臓器移植看護の具体的な教育が行われていないことを鑑み、平成17年度からは、移植看護に関わる看護師を対象とした基礎レベルの研修を別に企画している。

3) 研修内容について

提供する研修プログラムの内容は、看護倫理検討委員会のワーキンググループから提示された教育プログラム案や文献、社会情勢などをもとに企画している。平成19年には、有識者と内容検討を行い、プログラム内容の見直しをしている。研修講師は、文献および有識者の方からの紹介によって選定している。

研修内容について現段階では、受講者のバックグラウンドが幅広いため、試行錯誤の段階にあるが、基本的に臓器移植コーディネーターに関連する基礎的な知識の教授がメインとなっている。し

かし、施設で既に移植コーディネーター的な役割を担っている研修生からは、より実践に即した演習形式のもの、ドナー側とレシピエント側分けて受講したいという意向や、反対に両方の立場を含めて受講したいという希望もある。そのような意向を受け、研修期間内の実習やロールプレイなどの演習も今後の検討課題である。

一方、専門性の高い移植コーディネーターの育成が必要という考えのもと、「移植医療に関する最新の多様な専門的知識と高度なスキルを備え、移植の全過程において対象となる人々が最良の移植医療を受けられるよう調整する役割を自律的に遂行する看護師」と、臨床移植コーディネーターを定義し、そのための教育プログラムが平成16年度に作成された（資料13）。

2. 養成研修の抱えている課題

1) 受講者の特性の相違

もともと本養成研修プログラムは会員の要望というよりも、医療環境や高度先進医療に関する社会状況の変化の中で、新しい看護の役割として、協会がファシリテートしていく中で生まれた研修プログラムである。よって当初の主たる目的としては、知識を普及させることであり、そういった意味で、移植医療に関する概論的な内容であった。しかし臓器移植が推進される中で、現場で求められている移植コーディネーターの養成研修にここ数年はシフトしてきており、研修の参加条件に「移植コーディネーターの任にあるもの、もしくはそういった役割が期待されているもの」といった項目を追加している。しかし受講者のバックグラウンドも、受講者の個人の希望で参加しているのか、組織の代表として参加しているのか等については様々であり、研修プログラムにある程度の柔軟性が必要であることには変わりがない。

2) 養成研修側として抱えている課題

(1) 研修を運営していく上での課題

現在、看護教育センターで行われている「医療

安全管理者養成研修」のように、研修を受けた受講者が現場に戻り、その専門性を生かした業務が診療報酬上に還元されるようなシステムがあれば、「臓器移植コーディネーター養成研修」の意義や方向性がみえてくる。しかし移植コーディネーターの場合、まだそういった制度的な裏付けがない。また、認定看護師や専門看護師のような明確な資格化もなく、同様な職業を行っている看護職の病院の位置づけについても様々である。

以上のような観点から、平成16年度に臨床移植コーディネーターの教育プログラムが作成されたが、まずは過去10年間行ってきた本研修の初級者レベルの教育プログラムの評価が必要であると考えている。

(2) 受講者の要望：

講義科目だけでなく、演習などを取り入れて欲しいといった希望や、「治験コーディネーター養成研修」のように実施病院の見学を行い、もっとリアリティーのある、現場実践にダイレクトに生かせるような研修プログラムへの要望が聞かれている。

また現在の養成研修プログラムは、臨床移植コーディネーター（レシピエント）よりのプログラムとなっており、ドナーコーディネーターの研修科目も増やして欲しい等の希望もある。さらに、内容が多岐にわたっているためスケジュールがタイトであるため、研修期間をもっと長くして欲しいとの要望もあるが、臨床で勤務している看護師が対象であり、これ以上研修期間を延長することは、現状では難しい点もある。

一方、移植看護に対する意識の高い研修生同士の情報交換の場になっており、横での連携を広げていく点においては、本研修の意義は大きいとの声が受講者から聞かれている。

3) 今後の課題

生体肝移植に限らず一般の生体移植の件数が増えている。しかし移植コーディネーターが増えていない現状を鑑みれば、例えばレシピエントやドナーの意思決定をサポートする看護職の役割

は大きい。

看護師は移植の現場において、対象者をサポートし、アドボケートしているが、現状の人員配置システムでは限界があることも事実である。また看護師は病棟など所属部署の異動があるため、必ずしも特定領域の専門性を積み上げる環境にあるとは言えないが、こうした養成研修を通して、キャリア形成するためのしくみが重要であると考えている。またそのためには、移植コーディネーターを看護師が行うことの意義に関する研究結果も重要であり、諸外国の状況なども含め、検討していく必要があると考えている。

なお、現時点において、「臓器移植コーディネーター」を認定看護師や専門看護師として制度化する予定はない。

D. 考察

本研究結果は、一団体の臨床移植コーディネーター養成研修に関する実態であり、一般化には限界がある。しかし我が国において、こうした養成研修が極めて少数であること、また本対象養成研修が、規模としても修了者数から言っても、他を圧倒していることを考えると、現状の養成研修のスタンダードとも言える。よってそこで抱えている課題は、今後の臨床移植コーディネーター教育プログラムを構築していく上で、多くの示唆を得たと考える。その中で、移植コーディネーターの位置づけが各施設で異なるなど、ジョブディスクリプション（職種内容）が明確でないことが大きな課題として出された。その結果として、研修生のバックグラウンドが個人によって大きく異なり、コアな教育プログラムがない中で、そのアウトカムをどこに定めてよいか、養成機関は試行錯誤していた。

以上のことから、臨床移植コーディネーターのジョブディスクリプションが明確に定義されることが急務であり、またそれに基づくコアカリキュラムが作成され、養成研修を推進していくことが今後求められると考えられる。またそれと並行して、現状では研修を受けた受講者が現場に戻り、

その専門性を生かした業務が診療報酬上に還元されるような制度的な裏付けがなく、さらに認定看護師や専門看護師のような明確な資格化もないため、こうした社会制度や基盤を整えていくことの必要性も示唆された。

G. 研究発表

特になし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

予定を含め特になし。

※参考資料

日本看護協会 臓器移植関係 研修プログラム

資料 1 平成 10～20 年度 臓器移植関係の研修の開催経緯

資料 2 平成 10 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 3 平成 11 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 4 平成 12 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 5 平成 13 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 6 平成 14 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 7 平成 15 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 8 平成 16 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 9 平成 17 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 1 0 平成 18 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 1 1 平成 19 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 1 2 平成 20 年度 臓器移植関係 研修プログラム

資料 1 3 社団法人 日本看護協会 ニュースリリース
(2005 年 4 月 27 日)

| 年度 | 10年度 | | 11年度 | | 12年度 | | 13年度 | 14年度 | | |
|-----------------|---|-------------|---|-------------|---|-------------|--|------------|---|--|
| 研修カテゴリー | 看護ピックス | | 看護実践に関する教育 | 看護ピックス | 看護実践に関する教育 | | 特定領域の役割を担い能力拡大をめざす教育 | | | |
| 研修名 | 臓器移植法と看護 | | 臓器移植コーディネーターの役割 | 臓器移植法と看護 | 臓器移植コーディネーターの役割 | | 臓器移植コーディネーターの役割 | 臓器移植と看護の役割 | | |
| 開催地 | 清瀬 | 神戸 | 清瀬 | 神戸 | 清瀬 | 神戸 | 清瀬 | 清瀬 | | |
| 期間 | 3日間 | | 5日間 | 2日間 | 5日間 | | 5日間 | 5日間 | | |
| | 6/24～6/25 | 11/11～11/13 | 11/15～11/19 | 11/25～11/26 | 11/13～11/17 | 10/16～10/20 | 11/26～11/30 | 7/1～7/5 | | |
| 定員(修了者) | 200名(97名) | 160名(136名) | 50名(44名) | 160名(168名) | 50名(34名) | 50名(35名) | 50名(54名) | 50名(53名) | | |
| 参加条件 | 会員であること | | 会員である事 | | 実務経験5年以上 | | 看護実務経験5年以上 | | | |
| コース目標 | 医療(治療)技術としての臓器移植を理解し、看護に求められる機能と果たす役割を学ぶ。倫理的・社会的・法的側面から臓器移植を考える | | 臓器移植に対する理解を深め、移植者・提供者の身体的・心理的・社会的諸問題をとりえ、臓器移植コーディネーターの役割を理解する | | 医療(治療)技術としての臓器移植を理解し、看護に求められる機能と果たす役割を学ぶ。倫理的・社会的・法的側面から臓器移植を考える | | 臓器移植に対する正しい知識と理解を深め、移植者・提供者、家族の身体的・心理的・社会的側面の特徴を理解し継続的な援助ができるための臓器移植コーディネーターとしての役割を学ぶ | | | |
| 主な内容 | 臓器移植法の概要と成立のプロセス・評価 臓器移植医療の現状と動向 肝臓移植を受けて～アメリカの医療・看護に思うこと、日本の医療・看護に望むこと 臓器移植コーディネーターの役割と活動の実際 臓器移植法と看護～看護倫理と看護職の役割・機能を考える | | 移植医療の現状と動向・実際、 臓器移植法施行と脳死下移植の課題、 レシピエントCの役割/実際、 ドナーコーディネーターの役割/実際、 臓器移植医療の実際、 アメリカでの肝移植体験から、 移植医療チームにおける看護の役割、 移植医療に関わる看護職としての責任・倫理・役割・課題、 演習 | | 臓器移植の現状と課題 臓器移植における生命～倫理とIC 臓器移植を受けて パネルディスカッション (臓器移植の実際～臓器移植における医療従事者とコーディネーターとの連携) | | 臓器移植法施行と脳死下移植の課題 移植医療(臓器移植とは、移植医療の発展/チーム医療、移植チームの構成員・移植コーディネーターと職種間連携、患者・家族・医療者のメンタルヘルス・医療者としての倫理) 臓器移植看護(レシピエントコーディネーターの役割活動/ドナーコーディネーターの役割活動/周手術期・移植後/移植医療における看護の役割) 演習(課題別 GW: 威力看護の手順作成・移植医療のシステム構築・患者、家族支援のあり方) ★清瀬・神戸ではプログラム内容が異なる | | 臓器移植法施行と脳死下移植の課題 移植医療(臓器移植とは、移植医療の発展/チーム医療、移植コーディネーターと職種間連携、患者・家族・医療者のメンタルヘルス、医療者としての倫理) 臓器移植看護(レシピエントコーディネーターの役割/ドナーコーディネーターの役割/周手術期看護、移植後看護/組織した組織的な支援体制の確立、臓器移植コーディネーターの種類・役割・業務・移植看護の確立と教育/臓器移植看護の課題と展望) 演習(課題別 GW: 移植看護の手順作成、移植医療のシステム構築、コーディネーター業務の確立、患者・家族支援のあり方) | |
| 企画の意図 | H9の臓器移植法施行を受けH10～トピックス研修開催。臓器移植法が施行され、これから対面していくことになるであろう移植医療の中で看護に求められることを理解することをねらいとした。機能や役割を理解し臓器移植の中で看護師のあり方を考える機会とすることを意図して企画。 | | 看護倫理検討委員会の臓器移植コーディネーターに関する検討プロジェクトにより提案された5日間研修案の内容に準じて、また参加者の背景が必ずしも臓器移植に関わっている看護職者でないことを考慮して企画。 | | 看護職が移植をどう捉え(倫理的側面を中心に)看護の役割をどう果たしていくかを考えることが出来るプログラムを企画 | | 前年度の内容を踏襲して企画。また、必ずしも臓器移植に関わる看護職者でないことをも考慮して時代背景、看護職の役割などが明確になるプログラムとなるよう考慮 | | 内容は昨年を踏襲し、知識の整理をすともにも、自己の臓器移植看護実践における課題に関するまとめを行なうことをコースの学習目的とした。 コーディネーターとしての基本的知識を獲得することを目標。 | |
| 受講生背景 | | | 師長9名、主任17名、スタッフ16名、移植C2名 | | | | 師長2名、主任8名、スタッフ21名、教員1名、移植C2名。 臓器移植実施施設:17名、臓器提供指定施設:23名、現在移植医療に関わっている:15名(以上清瀬) | | 移植医療施設の人よりも、移植を受ける患者の病院で勤務するものが多い 専任・兼任RC 5名、専任・兼任院コ 6名、移植看護に関わる 37名、 関わり無し 3名、看護教育 2名 師長4名、主任15名、スタッフ33名 | |
| 受講生動機・学習課題 | | | 移植Cの役割、看護師の役割・直接ケア、移植医療の現状と課題、チーム・医療者間の連携 | | 知識の獲得 | | 移植Cの役割、看護の役割、移植医療の現状と課題、チームの連携、精神的・社会的諸問題の理解と援助、知識の習得 | | 移植医療と看護における基本的な知識の習得(臓器移植法、看護の実際等)、移植Cの活動の実際(Cの役割、他部門との協働等)、の2点に大きく分かれる傾向。 | |
| 受講生評価・今後学習したい内容 | アンケートより: ・実際の移植後の具体的な内容が聞きたい ・ドナー側の意見も聞きたい ・移植Cを目指すものにとっては一般的過ぎた内容 ・レシピエントコーディネーターのコースを企画して欲しい | | 脳死下移植のシミュレーション、ドナー家族の対応ロールプレイ、海外の事情、心理面・倫理面、ステップアップ研修をして欲しい | | アンケートより: 受講者同士の意見交換の場が欲しい | | アンケートより もう少し詳しい話が聞きたかった(コーディネーター育成のための講義を望む声があり) | | | |

| 年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | |
|-----------------|---|---|--|--|
| 研修カテゴリー | 特定領域において役割を担い能力拡大を目指す教育 | | 成人看護 | 養成研修 |
| 研修名 | 臓器移植コーディネーターと看護の役割 | 臓器移植コーディネーター養成研修 | 臓器移植看護に関わるための基礎知識 | 臓器移植コーディネーター養成研修 |
| 開催地 | 清瀬 | 清瀬 | 清瀬 | |
| 期間 | 5日間 | 5日間 | 2日間 | 5日間 |
| | 9/8~9/12 | 12/20~12/24 | 7/4~7/5 | 12/12~12/16 |
| 定員(修了者) | 50名(37名) | 50名(49名) | 50名(48名) | 50名(49名) |
| 参加条件 | 臨床経験5年以上で、次のいずれかに相当①臓器移植看護に関わる②臓器移植看護の役割を担うことを期待されている③レシピエントコーディネーターを希望 | 臨床経験5年以上で、次のいずれかに相当①臓器移植看護に関わる②臓器移植看護の役割を期待されている③レシピエントコーディネーターを希望 | なし | 臨床経験5年以上で、次のいずれかに相当。①臓器移植看護に関わる②臓器移植看護の役割を期待されている③レシピエントコーディネーターを希望 |
| コース目標 | 臓器移植に対する正しい知識と理解を深め、移植者・提供者およびその家族の身体的・精神的・社会的側面における特徴を理解する。臓器移植における継続的な援助をするために、レシピエントコーディネーターを中心とした臓器移植コーディネーターの役割について学ぶ | 臓器移植に対する正しい知識と理解を深め、移植者・提供者およびその家族の身体的・精神的・社会的側面における特徴を理解する。臓器移植における継続的な援助をするために、レシピエントコーディネーターを中心とした臓器移植コーディネーターの役割について学ぶ | 臓器移植患者における身体的、精神的、社会的側面を理解し、臓器移植患者への看護・支援における知識・技術の習得を図る | 臓器移植医療に対する正しい知識を修得し、臓器移植医療に関わる移植コーディネーターの役割および援助について理解する。また、臓器移植者・臓器提供者・家族の身体的・精神的・社会的側面を理解し、臓器移植における継続的な援助をするための知識を修得する |
| 主な内容 | 臓器移植医療の現状と動向・移植医療の発展、ドナーコーディネーターの役割と活動の実際、臓器移植法と脳死下移植の課題、臓器移植医療における看護の役割、移植医療チームにおけるレシピエントコーディネーターの役割と活動の実際、臓器移植医療の看護の実際(移植前・周手術期・移植後)支援体制の確立、移植看護の確立と具体的な対策、演習(課題別 GW施設の現状と問題点、具体的な対策) | 臓器移植医療における各コーディネーターの役割、臓器移植の現状と動向、日本臓器移植ネットワークの役割、移植医療と倫理、【臓器移植側】臓器移植医療の看護の実際(腎/肝)移植のメンタルヘルス、レシピエント移植コーディネーターの看護、【臓器提供側】臓器提供プロセスの実際・看護/家族への援助、グリーフケア演習(移植・提供側個別に、課題、解決策を検討)→合同発表会 | 臓器移植医療の現状と動向 移植システム 臓器移植の実際と看護 (ドナー側・レシピエント側) 移植に関する基礎知識 (拒絶反応、免疫抑制剤、感染症、精神的問題、心・腎・肝における看護の実際) 演習(情報交換を基本とした GW) | 【総論】 臓器移植医療の基礎知識・臓器移植医療の現状と動向・臓器移植医療のシステム 臓器移植の実際/臓器移植と倫理/移植看護時の使用薬剤/レシピエント・ドナー・家族に対する精神的支援、 臓器移植医療に関わる移植コーディネーターの概要・継続看護・フォローアップ体制 【臓器移植側】 レシピエントに対する看護、 【臓器提供側】生体ドナーに対する看護 |
| 企画の意図 | 今年度も、H12~の研修と同様、クリニカルコーディネーターの役割普及を目的とした内容とし、それにプラスして今日的課題を盛り込み、解決の手がかりを得られるような内容とした。 | 幅広い背景を持つ受講生に効果的な教育を提供するため、1・2日間:臓器移植の基本的知識・技術、3~5日目は移植提供側と移植実施側の2つに分かれて講義・演習を行うこととした。(WGの提案による) | 受講者の背景の拡大を鑑み、移植看護に関わる看護師対象とする基礎レベルの研修を企画。 | H17にWGが出した「クリニカル移植コーディネーター」の養成にかかわる研修を行う予定だったが、日程の変更、実習先の確保困難のため、昨年度同様のプログラムとする。また、「クリニカル移植C」の定義からすると、ドナー・レシピエント両方の知識が必要。そこで、昨年度のドナー・レシピエント分別をやめ、「総論」「ドナー側看護」「レシピエント側看護」を一斉講義で行なうこととした。 |
| 受講生背景 | 専任・兼任レシピエント 4名、院コ 4名、移植に従事 19名、委員委員会委員 1名 臓器移植実施施設:10名、提供施設:9名、提供・実施施設:12名 師長 4名、主任 7名、スタッフ 29名 | 師長 4名、主任 14名、スタッフ 27名、ドナC 7名、レシピエント 5名 移植看護に関わる(C含む)人:ドナ側 14名、レシピエント 12名、関り無し 12名 移植医療・看護の経験年数:5~10年未満が30名、移植C経験年数:1年未満10名、1~3年8名 臓器提供施設 19名、臓器移植施設 5名 | 師長 7名、主任 10名、スタッフ 33名 | 移植C 11名(専任4・兼任5・不明2)、移植C経験年数:6M未満4、6M~1年未満5、1~2年未満1、3年以上1、担当臓器:腎臓18、肝臓13、心臓・角膜各4、肺・脾臓・造血幹各3、小腸・骨髄各2、耳骨1 臓器提供施設5、移植実施施設17、両者7、実施無し0 師長 9名、主任 14名、スタッフ 28名、その他 |
| 受講生動機・学習課題 | 移植における看護師の役割、現状・課題の把握、レシピエントの役割、ドナーCの役割 | | | 移植Cの活動の実際、患者・家族とのかかわり方、他職種との連携他 |
| 受講生評価・今後学習したい内容 | アンケートに「移植看護未経験者とコーディネーターが一緒ということはどうかと思う」、「病態や看護についての内容を中心とした研修も開催してほしい」 | アンケートよりドナー側レシピエント両方受けたかった | | <今後学習したい内容> 新人教育、事例検討、脳死患者と家族とのかかわり方、解剖生理、現場研修、カウンセリング技法・心理学、社会資源、ドナーCについて、慢性疾患患者の精神的ケア |

| 年度 | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|-----------------|---|---|--|---|--|---|
| 研修カテゴリ | 成人看護 | 養成研修 | 看護共通 | 養成研修 | 看護共通 | 養成研修 |
| 研修名 | 臓器移植看護に携わるための基礎知識 | | 臓器移植の基礎知識 | | 臓器移植におけるはじめての看護実践 | |
| 開催地 | 清瀬 | | 清瀬 | | 清瀬 | |
| 期間 | 3日間 | 5日間 | 3日間 | 5日間 | 3日間 | 5日間 |
| | 10/17~19 | 12/11~15 | 7/18~20 | 11/26~30 | 5/28~30 | 12/11~15 |
| 定員(修了者) | 120名(84名) | 50名(47名) | 100名(75名) | 50名(48名) | 140名 | 50名 |
| 参加条件 | なし | 日本看護協会会員もしくは入会手続き中 臨床経験5年以上で、次のいずれかに相当①臓器移植看護に携わる②臓器移植看護の役割を期待されている③レシピエントCを希望 上司の推薦 | なし | 日本看護協会会員もしくは入会手続き中 臨床経験5年以上で①上司の推薦あり施設で移植コーディネーターの任にあるor今後役割を期待されている②臓器移植看護に携わる③レシピエントコーディネーターを希望②、③は推薦不要のいずれかに相当 | なし | 臨床経験5年以上で、次のいずれかに相当①施設において移植コーディネーターの任にあるor今後その役割を期待されているもので上司の推薦あり②臓器移植に携わっているもの(推薦不要) |
| コース目標 | 臓器移植医療の現状を理解し、臓器移植医療における看護に必要な知識を習得する | 臓器移植医療に必要な正しい知識を修得し、臓器移植医療に携わる臓器移植コーディネーターの役割および援助について理解する | 臓器移植医療の現状を理解し、日本における臓器移植件数の多い臓器(心臓、肺、腎臓、肝臓)を通して、臓器移植医療現場の看護に必要な知識を習得する | 臓器移植医療に必要な正しい知識を習得し、臓器移植医療に携わる各臓器移植コーディネーターの役割およびレシピエント移植コーディネーターの活動について理解する | 臓器移植医療の概要を理解するとともに、心臓・肺・腎臓・肝臓の各臓器の移植を通じて、移植における看護師の役割と移植看護に必要な基本的知識を習得する。 | <企画> |
| 主な内容 | 臓器移植医療とは、脳死下臓器提供における臓器移植医療のシステム 現役の移植コーディネーターの活動 ヒューマンネットワーク 看護の実践(心、肺、腎、肝移植編) | 臓器移植医療に携わる移植コーディネーターの種類と役割/ 臓器移植医療の基礎知識、臓器移植医療の現状と動向、脳死下臓器提供における臓器移植医療のシステム/ 院内コーディネーターの役割と実際/ 臓器移植医療に用いられる薬剤/ 臓器移植医療と倫理/ レシピエントドナー・家族に対する精神的支援/ レシピエント移植コーディネーターの役割と実際①、② | 臓器移植医療とは、脳死下臓器提供における臓器移植医療のシステム/ 現役の移植コーディネーターの活動/ 看護の実践(心、肺、腎、肝移植編) | 臓器移植医療に携わる移植コーディネーターの種類と役割/ 臓器移植医療の現状と動向、脳死下臓器提供における臓器移植医療のシステム、 移植と免疫/臓器移植医療に用いられる薬剤/ インフォームドコンセント、承諾の手続きと倫理/ レシピエントドナー・家族に対する精神的支援/ レシピエントドナー・家族に対する社会支援/ レシピエント移植コーディネーターの役割と実際①、② | 臓器移植医療とは、臓器移植医療のシステム/ 移植における看護師の役割/ 臓器移植看護の実践 (腎臓・肺・肝臓・心臓移植編) | <企画> |
| 企画の意図 | 対象者を臓器移植医療に携わる看護師、すなわち生体ドナーやレシピエントに対して術前ならびに術後の看護ケアを提供する看護師を想定し、臓器移植医療における基礎知識の習得を目指したプログラム構成とする。なお、取り上げた臓器は、日本において移植件数が多い臓器より選出。 | 前年度の内容を踏襲。前年度のアンケートで寄せられた意見を加味してプログラムを構成。 | 前年度を踏襲 | H19.4に開催した有識者会議より、養成研修は、基礎知識のある人を対象としたステップアップ研修という位置づけだがドナー/レシピエントに特化せず、その前段階としてコーディネーターとしての全般的知識の提供を行なうのが妥当との結論。 それに従い、昨年の研修の内容から「基礎知識」に関する部分を除外し、当会議により挙げられた「養成研修」に必要な項目を盛り込んで企画。 | 前年度有識者会議での検討をもとに、基礎教育修了者で臓器移植の学習がはじめての「初学者」を念頭に、より基礎・基本的なレベルとし、移植看護の概要とその役割が、各臓器の移植看護の具体的事例から習得できる内容とした。 | <企画>(前年度を踏襲の予定) |
| 受講生背景 | 師長8名、主任15名、スタッフ68名、教員1名、その他 受講生集まらず募集延長を行なった | 副看護部長1名、師長4名、主任13名、スタッフ27名、看護教員1名、 担当臓器:腎31、肝5、肺2、角膜1その他 臓器提供施設6、移植実施施設23、両方の施設9、実施無し5 移植コ10(専任3・兼任7) 移植関係の経験年数:~1年6、1~3年6、3年↑16) 移植看護に携わる人20名、委員会委員1名、関り無し12名 ※定員割れだったため参加条件以外の人も受け入れた | 副看護部長1、師長3、主任19、スタッフ56、教員2、その他 移植関係者10名(移植コ4、移植チームその他6) 受講生集まらず募集延長。 | 師長4名、主任14名、スタッフ29名その他 担当臓器:腎臓28、肝臓12、肺・脾臓各7、心臓3、角膜5、小腸2、骨髄・造血幹各1 臓器提供施設6、移植実施施設25、両者11、実施無し1 移植コ15名(レシコ4、院コ9 専任3、兼任9) 移植関係の経験年数~1年10、1~3年11、3年↑11名 移植に関わっている人12名、委員会委員1名、関り無し8名 | | |
| 受講生動機・学習課題 | | 知識習得、移植コとしての活動に役立てる、興味、目指している | | 臓器移植の基礎知識、移植コとしての知識の習得、移植コの役割・活動、レシピエントに興味がある | | |
| 受講生評価・今後学習したい内容 | | アンケートより ・ドナー/レシピエント、臓器別に分かれていた方がいいかもしれない ・レシピエント中心の研修。ドナーの内容が薄くなってしまふ。 ・レシピエントドナー両方の話が聞けてよかった ・ぜひ認定制度として確立させて欲しい | アンケートより ・様々な分野の移植の勉強が出来てよかった ・それぞれの移植領域をもう少し深く学習したい | アンケートより もっと具体的な内容が欲しい、演習があると良い(面接のロールプレイなど) <今後学習したい内容> ドナーCについて(活動・援助方法)、脳死移植事情、施設実習 | | |

研修修了者累積数：臓器移植コーディネーター関係の研修(平成11年度~19年度の10研修)448名
トピックス・基礎知識関係の研修(平成10年度~19年度の6研修)608名

平成10年度 看護教育研究センター

臓器移植法と看護

○医療(治療)技術としての臓器移植を理解し、看護に求められる機能と果たす役割を学ぶ。倫理的・社会的・法的側面から臓器移植を考える。

| 月日 | 曜 | 科 目 | | 講師 | |
|------|---|--|-------------|--|----|
| | | 9:30~12:30 | 13:30~16:30 | | |
| 6/24 | 水 | 開講・オリエンテーション 10:30~17:00 臓器移植法の概要と成立のプロセス・評価 | | 中島 | |
| 25 | 木 | 臓器移植医療の現状と動向 | 鈴木 | 肝臓移植を受けて - アメリカの医療・看護に 思うこと、日本の医療・ 看護に望むこと- | 野村 |
| 26 | 金 | 臓器移植コーディネーターの 役割と活動の実際 | 座間 | 臓器移植法と看護 - 看護倫理と看護職の役割・ 機能を考える- | 藤原 |

- ◆講師 中島 みち 作家
鈴木 盛一 国立小児病院
野村 祐之 青山学院大学、青山学院女子短期大学
座間 幸子 社団法人日本臓器移植ネットワーク
藤原 正恵 前日本看護協会看護教育・研究センター

平成10年度 神戸研修センター

臓器移植法と看護

○医療（看護）技術としての臓器移植を理解し、看護に求められる機能と果たす役割を学ぶ。倫理的・社会的・法的側面から臓器移植を考える。

| 月日 | 曜 | 科 目 | | 講師 | 講師 |
|-------|---|---|-------------|---|---------|
| | | 9:30~12:30 | 13:30~16:30 | | |
| 11/11 | 水 | 開講 オリエンテーション 9:45~ 臓器移植法の概要と成立 過程 | 丸山 | 臓器移植を受けて 一命の意味・脳死臓器提 供の社会的意義・日本の 医療一 | 野村 |
| 11/12 | 木 | 臓器移植の現状と動向 | 額田 | 移植看護の実際 | 堀 本田 |
| 11/13 | 金 | 臓器移植コーディネータ ーの役割と活動の実際 | 小中 | 臓器移植医療における看 護の役割・機能を考える 一倫理的側面から一 | 西森 |

| | | |
|-----|-------|------------------------|
| ◆講師 | 丸山英二 | 神戸大学法学部 |
| | 野村祐之 | 青山学院女子短期大学 |
| | 額田 勲 | 神戸市みどり病院 |
| | 堀 由美子 | 国立循環器病センター看護部 |
| | 本田久美子 | 国立循環器病センター看護部 |
| | 小中 節子 | 社団法人日本臓器移植ネットワーク近畿ブロック |
| | 西森三保子 | 京都大学医学部医の倫理委員 |

平成11年度 看護教育研究センター

◆プログラム 臓器移植コーディネーターの役割

| 月日 | 曜 | 科 目 | 講師 | 科 目 | 講師 |
|-------|---|---|-----|--|----------------|
| | | 9:30~12:30 | | 13:30~16:30 | |
| 11/15 | 月 | 開講・オリエンテーション ・日本看護協会の臓器移植 コーディネーター育成に関す る方針とコースのねらい ・情報交換、参加課題の確認 | 板倉 | 移植医療の現状と動向 | 鈴木 |
| 16 | 火 | 臓器移植法施行と脳死下移植 の課題 | 阿萬 | 移植医療チームにおけるレシ ピエント・コーディネーター の役割 | 堤 玉置 |
| 17 | 水 | ドナー・コーディネーターの 役割と活動の実際 | 小中 | 13:00~15:00 臓器移植医療の実際 15:15~16:30 臓器移植医療における看護の実際 | 橋倉 西沢 |
| 18 | 木 | 情報交換 10:30~ レシピエント・コーディネ ーターとしての看護の実際 | 井山 | アメリカでの肝移植体験か ら、移植医療、看護にのぞむ こと | 野村 |
| 19 | 金 | 移植医療チームにおける看護 の役割 ・移植医療における看護の役 割（待機、周手術期、術後、 退院各時におけるレシピエン トへの援助を中心に） ・ドナー、レシピエント、家 族への継続した支援体制の確 立 ・移植看護と看護者教育 | 長谷川 | 移植医療に関わる看護婦とし ての責任、倫理、役割、課題 （グループ演習・ディスカッ ション、研修のまとめ） | 長谷川 板倉 他 |

| | | |
|-----|-------|------------------|
| ◆講師 | 鈴木 盛一 | 国立小児病院小児医療研究センター |
| | 阿萬 哲也 | 厚生省保険医療局臓器移植対策室 |
| | 堤 邦彦 | 北里大学病院 |
| | 玉置 勲 | 日本臓器移植ネットワーク |
| | 小中 節子 | 日本臓器移植ネットワーク |
| | 橋倉 泰彦 | 信州大学医学部附属病院 |
| | 西沢 尊子 | 信州大学医学部附属病院 |
| | 井山なおみ | 京都大学医学部附属病院 |
| | 野村 祐之 | 青山学院大学 |
| | 長谷川 浩 | 東海大学健康科学部 |

順序：講義順

平成11年度 神戸研修センター

「臓器移植法と看護」

○医療(治療)技術としての臓器移植を理解し、看護に求められる機能と果たす役割を学ぶ。
倫理的・社会的・法的側面から臓器移植を考える。

| 月日 | 科目 | 講師 | 科目 | 講師 |
|----------------------|----------------------------------|----|--|----------------|
| | 9:30~12:30 | | 13:30~16:30 | |
| 11 / 25 (木) | 開講：リエンション 9:40~ 臓器移植の現状と課題 | 額田 | 臓器移植における生命倫理とインフォームドコンセント | 西森 |
| 11 / 26 (金) | 臓器移植を受けて | 野村 | 《パネルディスカッション》 臓器移植の実際 ー臓器移植における医療従事者とコーディネーターとの連携ー | 野村 小中 萩原 |

講師 (敬称略)

| | |
|--------|-------------------|
| 額田 勲 | 神戸生命倫理研究会 (みどり病院) |
| 西森 三保子 | 京都大学医学部医の倫理委員 |
| 萩原 さがみ | 大阪大学医学部附属病院看護部 |
| 野村 祐之 | 青山学院女子短期大学 |
| 小中 節子 | 日本臓器移植ネットワーク |

平成12年度 看護教育研究センター

◆プログラム 臓器移植コーディネーターの役割

| 月日 | 曜 | 科 目 | 講師 | 科 目 | 講師 |
|-------|---|--|----------|---|----------------|
| | | 9:30~12:30 | | 13:30~16:30 | |
| 11/13 | 月 | 開講・オリエンテーション ・コースのねらい ・情報交換、参加課題の確認 | 丘 | 臓器移植法施行と脳死下移植の課題 | 町野 |
| 14 | 火 | 移植医療① ・臓器移植とは ・移植医療の発展（免疫抑制剤、技術の進歩、人工臓器、臓器提供） | 鈴木 | 移植医療② ・チーム医療、移植チームの構成員 ・移植コーディネーターと職種間連携 ・患者、家族、医療者のメンタルヘルス ・医療者としての倫理 | 玉置 |
| 15 | 水 | 臓器移植看護① ・レシピエント・コーディネーターの役割、活動 ・ドナー・コーディネーターの役割、活動 | 井山 小中 | 課題別グループワーク① a) 移植看護の手順、マニュアル作成 b) 移植医療のシステム構築、院内コーディネーターの役割確立、コーディネーター業務の確立 c) 患者支援、家族支援のあり方 | |
| 16 | 木 | 臓器移植看護② ・周手術期 ・移植後 | 添田 | 臓器移植看護③ 移植医療における看護の役割 | 長谷川 |
| 17 | 金 | 課題別グループワーク② 発表・まとめ | | | 由上 萩原 西田 |

| | | |
|-----|-------|--------------------|
| ◆講師 | 町野 朔 | 上智大学 |
| | 鈴木 盛一 | 国立小児病院小児医療研究センター |
| | 玉置 勲 | 日本臓器移植ネットワーク |
| | 井山なおみ | 京都大学医学部附属病院移植外科情報室 |
| | 小中 節子 | 日本臓器移植ネットワーク |
| | 添田英津子 | 慶應義塾看護短期大学 |
| | 長谷川 浩 | 東海大学健康科学部 |
| | 由上 恵子 | 信州大学医学部附属病院 |
| | 萩原 邦子 | 北海道大学医学部附属病院 |
| | 西田 文子 | 山梨医科大学医学部看護学科 |

順序：講義順

平成12年度 神戸研修センター

臓器移植コーディネーターの役割

◆プログラム

| 月日 | 科目 | | | 講師 | 科目 | 講師 |
|--------------|--|----|--------------------------------|----------|-------------------------|-----|
| | 9:30~12:30 | | | | 13:30~16:30 | |
| 10/16 (月) | 開講・オリエンテーション ガイダンス、参加課題の確 認、情報交換 | | | 土肥 吹原 | 移植医療の現状、課題 | 額田 |
| 10/17 (火) | 臓器移植法と今後の課題 | | | 丸山 | 医療、看護に求めること —移植を受けて— | 大久保 |
| 10/18 (水) | 移植看護の実際 I ● 心移植 (9:30~) ● 腎移植 (11:00~) | | | 萩原 酒井 | ドナーコーディネーターの 役割、活動 | 小中 |
| 10/19 (木) | 移植看護の実際 II ● 肝移植 (9:30~) ● 肺移植 (11:00~) | | | 草深 梶清 | 臓器移植の倫理的側面 | 西森 |
| 10/20 (金) | 9:30 ~ 11:00 レシピエン トコーディネ ーターの 役割、活動 | 井山 | グルー プワー ク参加 課題の 検討 | 土肥 吹原 | 移植医療における看護の 役割 | 長谷川 |

◆講師

| | |
|--------|------------------------|
| 額田 勲 | みどり病院 |
| 丸山 英二 | 神戸大学大学院法学研究科 |
| 大久保 通方 | 日本移植協議会 |
| 長谷川 浩 | 東海大学健康科学部 |
| 萩原 さがみ | 大阪大学医学部附属病院 |
| 酒井 登茂子 | 名古屋第二赤十字病院 |
| 小中 節子 | 社団法人日本臓器移植ネットワーク近畿ブロック |
| 草深 仁子 | 信州大学医学部附属病院 |
| 梶清 友美 | 岡山大学医学部附属病院 |
| 西森 三保子 | 京都大学医学部医の倫理委員 |
| 井山 なおみ | 京都大学医学部附属病院 |

平成13年度 看護教育研究センター

| プログラム 臓器移植コーディネーターの役割 | | | | | | |
|-----------------------|---|--|--|----|---|---------------|
| 月日 | 曜 | 科 目 | | 講師 | 科 目 | 講師 |
| | | 9:30~12:30 | | | | |
| 11/26 | 月 | 開講オリエンテーション 臓器移植コーディネーターに関するコースのねらい ・情報交換、課題学習 | | 石黒 | 臓器移植法施行と脳死下移植の課題 ・臓器移植法 ・脳死判定基準の再確認 ・脳死下移植の現状、教訓、課題 | 日下 |
| 11/27 | 火 | 移植医療① ・臓器移植とは ・移植医療の発展（免疫抑制剤、技術の進歩、人工臓器、臓器提供） | | 野本 | 移植医療② ・チーム医療、移植コーディネーターと職種関連携・患者、家族、医療者のメンタルヘルス・医療者としての倫理 | 野副 |
| 11/28 | 水 | 臓器移植看護① ドナーコーディネーターの役割 | | 菊地 | 臓器移植看護② レシピエントコーディネーターの役割 | 井山 |
| 11/29 | 木 | 臓器移植看護③ ・周手術期 ・移植後 | | 添田 | 臓器移植看護④ ・ドナー、レシピエント、家族への継続した組織的な支援体制の確立 ・臓器移植コーディネーターの種類、役割、業務 ・移植看護の確立と教育 | 長谷川 |
| 11/30 | 金 | 臓器移植看護⑤ 臓器移植看護の課題と展望 11:00~ 課題別グループワーク | | 林 | 課題別GW・まとめ a) 移植看護の手順、マニュアル作成 b) 移植医療のシステム構築、院内コーディネーターの役割確立 c) コーディネーター業務の確立 d) 患者支援、家族支援のあり方 | 林 萩原 桐澤 |

講 師 日下英司 厚生労働省健康局疾病対策課 臓器移植対策室 臓器移植指導官
野本亀久雄 日本臓器移植ネットワーク、日本臓器移植学会
野副美樹 東京女子医科大学
菊地耕三 日本臓器移植ネットワーク
井山なおみ 京都大学医学部付属病院移植外科情報室
添田英津子 慶応義塾看護短期大学
長谷川浩 元東海大学健康科学部社会福祉学科
林優子 岡山大学医学部保健学科
萩原邦子 北海道大学医学部付属病院
桐澤明 長野赤十字病院
(講義順・敬称略)

平成14年度：臓器移植と看護の役割

○臓器移植看護における基本的知識と、レシピエントコーディネーターを中心とした看護の役割について学ぶ。

| 月日 | 曜 | 科 目 | 講師 | 科 目 | 講師 |
|-----|---|---|-----------|--|----------------|
| | | 9:30～12:30 | | 13:30～16:30 | |
| 7/1 | 月 | 開講・オリエンテーション ・コースのねらい ・情報交換 11:00～12:30 臓器移植医療における看護の役割 | 担当者 野副 | 臓器移植医療の現状と動向 ・臓器移植とは ・臓器移植医療と倫理 ・移植医療の発展（免疫抑制剤、技術の進歩、人工臓器、臓器提供） | 野本 |
| 7/2 | 火 | 臓器移植法と脳死下移植の課題 | 佐藤 | 移植医療チームにおけるレシピエントコーディネーターの役割と業務 | 井山 |
| 7/3 | 水 | ドナーコーディネーターの役割と活動の実際 | 菊地 | 臓器移植医療の実際 | 橋倉 |
| 7/4 | 木 | 臓器移植看護① ・周手術期 ・移植後 | 添田 | 臓器移植看護② ・ドナー、レシピエント、家族への継続した組織的な支援体制の確立 ・移植看護の確立と看護者教育 | 萩原 |
| 7/5 | 金 | 課題別グループディスカッション (臓器移植医療に関わる看護職の責任、役割、倫理、課題等) | | | 添田 萩原 桐澤 |

講 師 野副 美樹 東京女子医科大学看護学部
野本 亀久雄 日本臓器移植ネットワーク
佐藤 由佳 厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対策室
井山 なおみ 京都大学医学部附属病院
菊地 耕三 日本臓器移植ネットワーク
橋倉 泰彦 信州大学医学部附属病院
添田 英津子 慶応義塾看護短期大学
萩原 邦子 北海道大学医学部附属病院
桐澤 明 長野赤十字病院

順序：講義順